

「日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN)」は、河川・流域再生に関わる事例・経験・活動・人材等を交換・共有することを通じ、各地域に相応しい水辺再生の技術や仕組みづくりの発展に寄与することを目的として、2006 年 11 月に(財)リバーフロント整備センターが設立した団体です。また、「アジア河川・流域再生ネットワーク(ARRN)」の日本窓口として、日本の優れた知見をアジアに向け発信し、同時に、アジアの素晴らしい取組みを日本国内に還元する役割も担います。

目 次	Pages
➤ 事務局活動報告	1
➤ 研究・事例の紹介	4
➤ 会員寄稿記事	8
➤ 会議・イベント案内	9
➤ 冊子・ビデオ等の紹介	9
➤ 会員募集中	10

巻頭書記

JRRN が設立されてまもなく 3 年を迎えますが、個人会員が 8 月末時点で約 360 名、また団体会員も 11 団体に達しました。JRRN では、更にネットワークの拡大を図りながら、国内及びアジアの河川再生に関わる情報・技術の橋渡し役を目指して参ります。

本号では、8 月中旬に韓国・仁川で開催された「第 2 回 ARRN 情報委員会・技術委員会」及び「世界都

市水フォーラム 2009」への参加報告、また韓国出張時に訪問したソウル市内を流れる清溪川の現在の様子を写真中心にご紹介致します。

今後も、国内外の積極的な情報共有と人材交流を目指して参りますので、引き続き、JRRN 会員の皆さまのご支援とご協力をお願い致します。

事務局活動報告(1)

「第 2 回 ARRN 情報委員会・技術委員会」開催報告(韓国・仁川)

2009 年 8 月 17 日(月)、アジア河川・流域再生ネットワーク(ARRN)の「第 2 回情報委員会」及び「第 2 回技術委員会」が韓国・仁川にて開催されました。

「情報委員会」は、ARRN の今後の活動内容や情報循環策について議論する場、「技術委員会」は ARRN として保有すべき技術やアジア版河川再生ガイドラインのあり方について議論する場として位置づけられており、第 1 回委員会は 2008 年 9 月に中国・北京市で開催されました。



委員会の様子

今回の情報委員会では、第6回世界水フォーラム(2012年3月)までのARRN中期活動計画やネットワーク拡大に向けた組織体制の話題、またヨーロッパ河川再生センター(ECRR)との今後の連携などについて議論を行いました。また、技術委員会においては、最新の各国の河川環境の話題を交換の後、2009年3月に発行した「ARRN河川再生ガイドライン ver.1」の今後の発展方針等について、活発な意見交換を行いました。

<参加者>

(ARRN情報委員)

伊藤一正(財団法人リバーフロント整備センター・株式会社建設技術研究所)、Hong Koo Yeo、Hong Kyu Ahn
(代理出席: KICT 韓国建設技術研究院)

(ARRN技術委員)

白川直樹(筑波大学)、Hong Koo Yeo、Hong Kyu Ahn
(代理出席: KICT 韓国建設技術研究院)

(オブザーバー)

Chanwan Kim (KICT 韓国建設技術研究院、KRRN 事務局長)、Kooil Kim (韓国河川協会会長)

(JRRN/ARRN事務局)

沼田彩友美、後藤勝洋、和田彰

残念ながら中国は欠席でしたが、ARRNの活動展開を方向づける議論ができたと感じております。今回の協議結果を踏まえ、2009年9月に韓国・ソウル市で開催される「第4回ARRN運営会議」に向けて、ARRN事務局として日中韓関係機関との調整を行っていきます。

委員会の詳細は以下のホームページをご覧ください。

<http://www.a-rr.net/jp/info/letter/report/1390.html>



(JRRN事務局 沼田彩友美)

事務局活動報告(2)

「世界都市水フォーラム 2009(WCWF)」参加報告

2009年8月18日(火)～21日(金)にかけて、韓国・仁川市の松島国際会議場(Songdo ConvensiA)を会場に「世界都市水フォーラム WCWF2009」が開催され、水問題に関わる専門家・約5000人が参加し最新の情報・技術の交換が行われました。

韓国・仁川市では、8月～10月の3ヶ月間にわたり「仁川世界都市祝典」が開催中で、本フォーラムは、この行事の一環として都市の水問題解決を目的に実施されたものです。

JRRN事務局では、本フォーラムでの論文発表を通じARRN及びJRRNの活動を参加者にPRすると共に、河川再生分野の関係者の方々との意見交換を行ってきました。また河川再生に関わる各種講演会に参加し最新の知見を収集して参りましたので、現地での活動の概要をご報告させていただきます。

World City Water Forum 概要

- テーマ: 「水と都市の革新と調和 ～仁川で水の色が変われば韓国の都市が変わる」
- 参加者: 国内外水関連専門家、学生、政府機関、学会など50カ国から約5,000人
- 目的: 水関連災害の予測および予防を図る全世界的な情報共有および対策づくり。及び国際的な水関連ネットワークを仁川を中心に構築し、仁川を北東アジアブルーゴールド産業の中心地として育成するため。
- 主催者: 仁川広域市 / 漢江水系管理委員会 / 仁川世界都市祝典組織委員会
- 共催者: 世界都市水フォーラム組織委員会 / 韓国水フォーラム / 仁川地域環境技術開発センター
- 後援: 環境部 / 国土海洋部
- 併催行事: 仁川環境技術展示会

■ WCWF 開会式の様子

8月18日（火）午前 WCWF 開会式が盛大に開催され、WCWF 実行委員長や開催地を代表して仁川広域市長から挨拶が述べられました。



開会式典の様子（実行委員長挨拶）

開会式での特筆すべき内容は、前・韓国水フォーラム会長で、気候変動に関する政府間パネル (IPCC) でも要職を務められた現・韓国首相の韓昇洙(ハン・スンス)氏が来賓として招かれ、韓国政府としての水問題への取り組みの優先度の高さを参加者にアピールしていた点があります。また、「気候変動と水問題」という基調講演では、日本における国土交通省に相当する「国土海洋部」ではなく、日本の環境省に相当する「環境部」大臣である Maanee Lee 氏が担っていた点も、日本と韓国の水行政の違いの一端を垣間見ることができました。

■ JRRN/ARRN 事務局からの論文発表

8月19日（水）午前開催された「都市の河川再生セッション（Restoration of Urban Stream Amenity）」において、ARRN/JRRN 事務局の沼田より「TREND IN URBAN STREAM RESTORATION IN ASIA AND DEVELOPMENT OF INTERNATIONAL NETWORK FOR KNOWLEDGE AND TECHNICAL INFORMATION EXCHANGE」と題した論文発表を行い、参加者にネットワークの普及を図るとともに、日本・韓国・スイスなどのセッション参加者と様々な意見交換を行いました。



JRRN/ARRN 事務局発表の様子

■ 河川再生関連セッションの参加

本フォーラムでは、テクニカルセッションとスペシャルセッションの二本立てで最新技術・研究・事例に関する論文発表が行われました。各セッションの主なテーマは次の通りです。

【テクニカルセッションのテーマ】

水と地球温暖化、都市における水インフラのモデリングと最適化、地下水の利用と管理、水資源の管理と政策、洪水と干ばつ、河口堰、ダム、沿岸の水管理、上水道、水文学、水理学、河川ガバナンス、流域統合管理、雨水管理による気候変化適応策、都市の河川再生

【スペシャルセッションのテーマ】

水生生態再生、洪水マップと保険、ユビキタス都市と水情報科学、都市インフラ発展のための官民協力、水の再生とグリーン革命、DHI 社の MIKE を用いた世界都市水モデリングと適用事例、水関連の災害と管理、水と交通と都市、韓国の水環境政策と適用、水と健康とエネルギー

様々なテーマがある中で、特に水災害管理や気候変動に関するセッションが、他のテーマに比べ参加者の注目を集めていたように感じました。本年3月にトルコで開催された第5回世界水フォーラムの時と同様に、水分野の国際会議においては、「水と気候変動問題」が最優先で解決されるべき問題であることを改めて認識できました。

JRRN 事務局では、河川環境再生に関連するセッションとして、「都市の河川再生」及び「水域生態再生」のセッションを中心に参加しましたので、その概要を以下にご紹介させていただきます。

①都市河川再生セッション

●テーマ：「Restoration of Urban Stream Amenity」

●開催日：8/18（火）～8/19（水）

全 24 編の論文が発表され、内 13 編が韓国、8 編が日本、そして中国とスイスという構成でした。

韓国からは、河川環境再生に関わる技術指針、合意形成手法、流れの解析、河川環境評価指標、河川再生事業の地域経済評価、再生事業実施後の自然再生モニタリング事例、また自然再生と親水性に関わる考え方など多岐に及ぶ論文が発表されました。一方、日本からは、各地域における行政や市民団体による河川環境再生の具体事例紹介が中心に発表されました。また、ヨーロッパの近自然工法の父と称され、日本とも縁の深いスイス・ゲルディ先生によるスイスの河川再生事例に関わる講演は特に参加者の高い関心を集めていました。

②水域生態再生セッション

●テーマ：「Aquatic Ecosystem Restoration」

●開催日：8/20（木）～8/21（金）

本特別セッションでは、全 36 編の論文が発表され、内 23 編が韓国と開催国中心の構成でした。

湿地再生や稀少鳥類の復元を目的とした事業紹介、また魚類や水域生態系の再生を中心に、①で紹介した都市河川再生セッションが土木系機関からの発表が多かったのに対し、本セッションは環境省系団体や大学研究者が中心に構成され、より生態学に根ざした発表が多いのが特徴的でした。土木系と環境系、すなわち工学と生態学の間に若干の溝の存在も感じましたが、日本における応用生態工学会や河川生態学術研究会を始めとする、両分野の積極的な融合に向けた取組みが韓国でも今後益々期待されます。

（JRRN 事務局 和田彰）

研究・事例の紹介

韓国・清溪川からの報告 ～再生事業完成からまもなく 4 年を迎えて



再生事業前の清溪川を覆う高速道路
（第 4 回 ARRNI 国際フォーラム資料より引用）

高速道路を撤去しかつての川を復元させることを公約に 2002 年にソウル市長に当選したイ・ミョンバク市長（現・韓国大統領）指揮の下、2 年 3 月の工期を経てソウル市中心部に約 30 年ぶりに清溪川が復元されたのは 2005 年 10 月 1 日の出来事でした。大都市での河川再生の成功事例として、アジアのみならず、世界的に注目を浴びたこの再生事業ですが、完成からまもなく 4 年を迎えようとしています。

事業完了後も継続して清溪川の生態環境や周辺環境のモニタリングが行われ、WCWF2009 では以下のような様々な環境改善効果が報告されていました。

- ・再生事業前の生物相が 17 のみだったのに対し、再生後 2 年で約 400 種まで増加。
- ・植生が自然河川に近付き、生物多様性が順調に増しており、一方で他の都市河川より外来種が少ない。
- ・夏場に周辺地域の気温低減に寄与している。
- ・工事完成後以降、水質改善（BOD）も図られている。

（出典：ECOLOGICAL RESTORATION UNDER PROGRESS IN SEOUL'S CHEONGGYE STREAM IN KOREA, TC-F2-3, WCWF2009）

JRRN 事務局では、2009 年 8 月 21 日（金）に清溪川の現地視察を行ってきましたので、写真を中心に再生事業完成から間もなく 4 年を迎える現地の様子をご報告させていただきます。

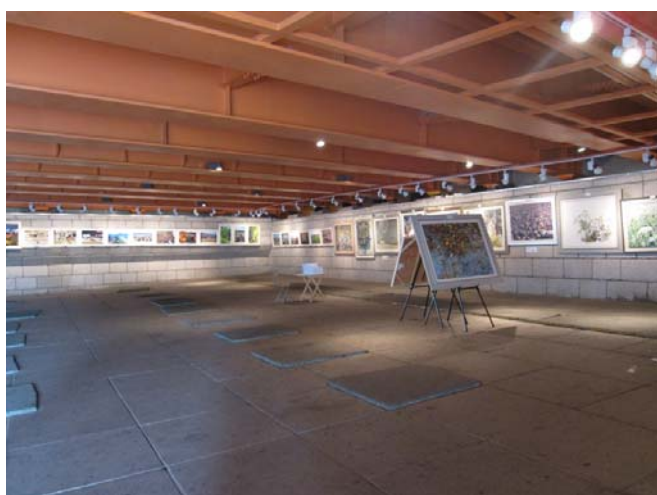
（次頁からの写真は上流から下流の順でご紹介しています）



清溪川の最上流部付近の賑わい



川の横断は大渋滞



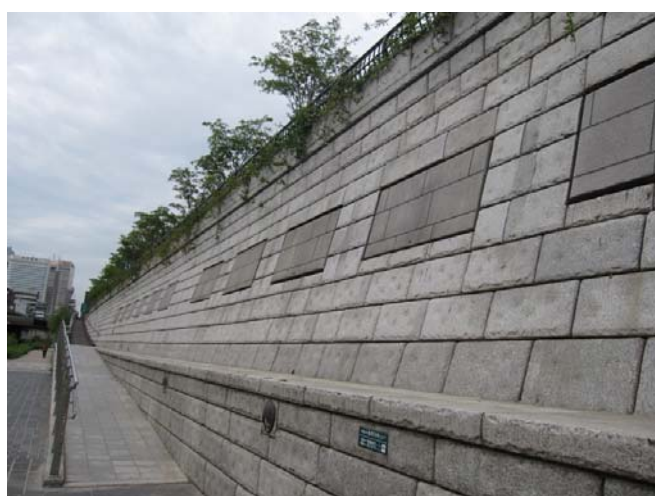
橋梁の下のアトリエ



川の中に設置された噴水



滝で覆う排水幹線合流部（写真左側）



平常時は閉じている雨水吐



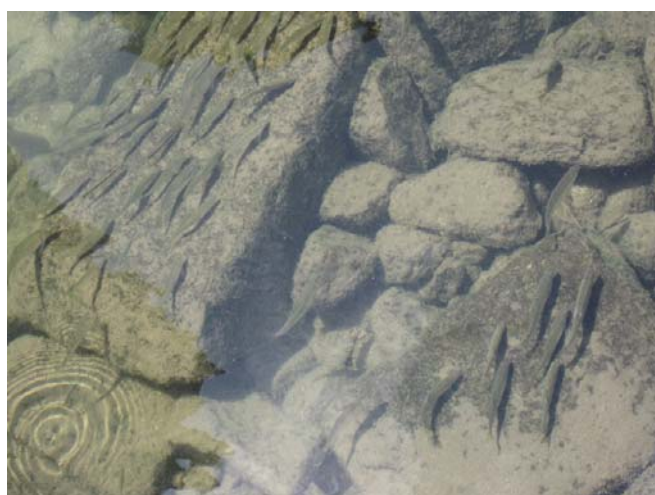
清溪川の川ガキ達



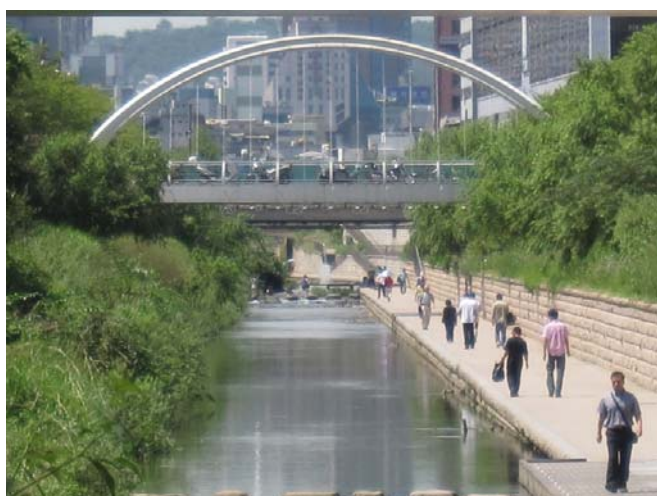
沿川には高級マンションも連立



地元の子供の遊び場に



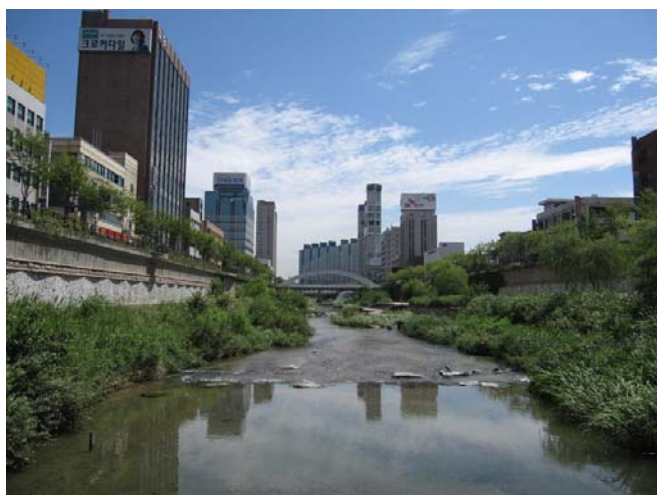
あちこちで見かけた魚の群れ（カワムツ）



川沿いは市民の移動ルート



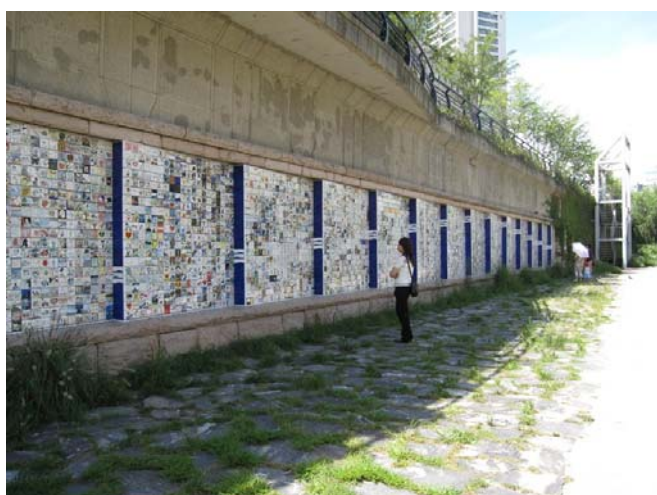
バリアフリー施設



豊かな植生



かつての橋脚をそのまま保存



地域の川へのメッセージ集



橋以外にもあるたくさんの横断ルート



鳥にとっても憩いの場



清溪川ミュージアム付近（写真右）

（JRRN 事務局 和田彰）

会員寄稿記事

水辺からのメッセージ No.4

国土文化研究所 主任研究員 岡村幸二（JRRN 会員）

真夏でもヒンヤリ清涼感：世田谷の等々力溪谷として親まれる親水空間



撮影：2008年6月

◆自己流を補う下水処理水を導水

等々力溪谷を流れる矢沢川には自己流が少なく、下水処理場からの高度処理水を仙川の礫間接触浄化施設を通して約2km区間導水し、平常水を増加させています。夏でも薄暗い別空間は、都会の喧噪を忘れるには格好の場所となっています。

◆気を配った石積護岸や遊歩道のデザイン

「親水」という言葉がようやく世間に広まってきた1980年代に、溪谷の斜面地の保全と護岸・遊歩道の工事が行われました。玉石練積みを“深目地”とし、天端コンクリートが目立たないように割り石を貼り付けるなど、景観に十分配慮したつくりとなっています。

※国土文化研究所は、株式会社建設技術研究所のシンクタンク組織です。

■ JRRN 会員皆様からの寄稿記事を募集しています！

旅先で見かけた水辺の風景や思い、水辺再生に関わる様々な活動報告、また河川環境再生に役立つ技術等、JRRN 団体・個人会員皆様からの寄稿記事をお待ちしています。（JRRN 事務局）

会議・イベント案内 (2009 年 9 月以降)

(ARRN・JRRN 主催・共催の会議・イベント)

■ARRN 主催「第 6 回水辺・流域再生にかかわる国際フォーラム」

○日時： 2009 年 9 月 29 日 (火) 13:30～17:40 ※言語：英語

○会場： KOFST 国際会議場 (韓国・ソウル市)

※プログラム詳細は近日中にホームページに掲載致します。→ <http://www.a-rr.net/jp/info/letter/information/1417.html>

(その他の河川再生・河川環境に関する主なイベント)

■魚の目線で川を見る 2009 フォーラム

○日時：2009 年 9 月 5 日 (土) 13:00～17:00

○主催：NPO 法人水環境技術研究会

<http://www.a-rr.net/jp/event/02/1416.html>

■第 9 回川に学ぶ体験活動全国大会 in ひろしま

○日時：2009 年 9 月 5 日 (土) ～6 日 (日)

○主催：川に学ぶ体験活動全国大会実行委員会

<http://www.a-rr.net/jp/event/03/1368.html>

■第 136 回 河川文化を語る会

○日時：2009 年 9 月 7 日 (月) 18:00～20:00

○主催：(社) 日本河川協会

<http://www.a-rr.net/jp/event/03/1325.html>

■第 17 回リバーフロント整備センター研究所報告会

○日時：2009 年 9 月 11 日 (金) 13:00～17:30

○主催：(財) リバーフロンティア整備センター

<http://www.a-rr.net/jp/event/03/1367.html>

■第 10 回全国源流シンポジウム

○日時：2009 年 9 月 12 日 (土) ～13 日 (日)

○主催：第 10 回全国源流シンポ実行委員会事務局

<http://www.a-rr.net/jp/event/02/1412.html>

■水フォーラム 2009

○日時：2009 年 9 月 13 日 (日) 10:00～16:30

○主催：水フォーラム 2009 実行委員会

<http://www.a-rr.net/jp/event/03/1295.html>

■野川自然の会 とんぼたんぼの稲刈

○日時：2009 年 9 月 19 日 (土) 10:00～12:30

○主催：野川自然の会

<http://www.a-rr.net/jp/event/02/1397.html>

■応用生態工学会第 13 回大会

○日時：2009 年 9 月 26 日 (土) 13:00～17:00

○主催：応用生態工学会

<http://www.a-rr.net/jp/event/03/1366.html>

■第 12 回水源地生態研究セミナー

○日時：2009 年 9 月 28 日 (月) 13:30～17:00

○主催：財団法人 ダム水源地環境整備センター

<http://www.a-rr.net/jp/event/04/1413.html>

■第 7 回「川の自然再生」セミナー

○日時：2009 年 10 月 1 日 (木) 13:00～17:15

○主催：(財) リバーフロンティア整備センター

<http://www.a-rr.net/jp/event/03/1402.html>

■ミツカン水の文化交流フォーラム 2009

○日時：2009 年 10 月 7 日 (水) 13:30～18:00

○主催：ミツカン水の文化センター

<http://www.a-rr.net/jp/event/03/1414.html>

■第 137 回 河川文化を語る会『流域思考の都市再生』

○日時：2009 年 10 月 19 日 (月) 18:00～20:00

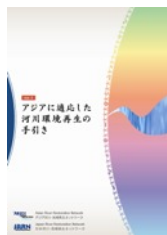
○主催：(社) 日本河川協会

<http://www.a-rr.net/jp/event/03/1370.html>

冊子・ビデオ等の紹介

■ アジアに適応した河川環境再生の手引き ver. 1

- ・ 発行：アジア河川・流域再生ネットワーク (ARRN)
- ・ 価格： 無 料



ARRN が今後作成を目指す「アジアにおける河川再生技術指針」の入門編として、非専門家の方々にも河川再生の意義やアプローチを理解して頂くことを目的に、写真や図を主体に平易な解説文を添えて作成致したものです。

本手引きをご希望される方は、「(財) リバーフロンティア整備センター企画グループ」までご連絡ください。送料のみご負担いただいた上で、無料で提供致します。

電話：03-6228-3860 / Fax：03-3523-0640

■ 川は生きている—川の文化と科学 (2009.6 発行)

- ・ 著 者： 森下 郁子 他
- ・ 出版社： ウェッジ
- ・ 発行年月： 2009 年 6 月
- ・ 価格： 1,470 円 (税込)
- ・ ISBN： 978-4863100510



科学の知見や日本の川づくりの長い歴史に基づき、日頃何気なく接している川と人、川と自然環境との深い関係について、一般向けに判り易く紹介しています。

会員募集中

■ JRRN の登録資格（団体・個人）

JRRN への登録は、団体・個人を問わず**無料**です。
市民団体、行政機関、民間企業、研究者、個人等、
所属団体や機関を問わず、河川環境の整備・改善に携
わるすべての方々のご参加を歓迎いたします。

■ 会員の特典

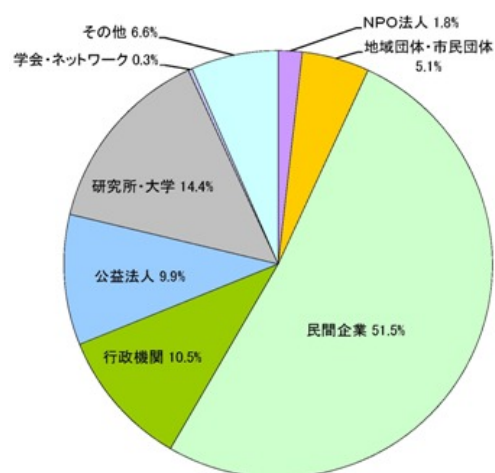
会員登録をされた方々へ、様々な「会員の特典」を
ご用意しています。

- (1) 国内外の河川環境に関するニュースを集約した
「JRRN ニュースメール」が週に 1 回～2 回メール
配信されます。
- (2) 国内外のセミナー、ワークショップ等の開催情報が
入手できます。また JRRN 主催行事に優先的に参
加することが出来ます。
- (3) 必要に応じた国内外の河川再生事例等の情報収集
の支援を受けられます。
- (4) JRRN を通じて、河川再生に関する技術情報やイベ
ント開催案内等を国内外に発信できます。
- (5) 韓国、中国をはじめとする、ARRN 加盟国内の河
川再生関連ネットワークと人的交流の橋渡しの支
援を受けられます。

■ 会員登録方法

詳細はホームページをご覧ください。

<http://www.a-rr.net/jp/info/member.html>



2009 年 8 月 31 日時点の個人会員構成

（個人会員数：361 名、団体会員数：11 団体）

JRRN 会員特典一覧表(団体会員・個人会員)

JRRNが提供するサービス		JRRN 団体会員	JRRN 個人会員	非会員 (一般の方)
1	ホームページへのアクセス及び各記事へのコメント入力※1	◎	◎	◎
2	ホームページ「イベント情報」欄でのイベント掲載※2	◎	◎	◎
3	ニュースメール(週2回)の配信※3	◎	◎	×
4	Newsletter(毎月)及び年次報告書(年1回)等の発刊案内メールの配信※3	◎	◎	×
5	JRRN/ARRN主催行事の優先案内・優先参加※4	◎	◎	×
6	国内外の河川再生関連情報・技術収集や専門家・組織紹介の支援※5	◎	◎	×
7	ホームページ「最近の話題・ニュース」及びニュースメール「会員提供情報」欄で 団体が関わる行事や出版、技術や製品等の案内の掲載※6	◎	△※7	×
8	ホームページ「会員登録」「人・組織のつながり」欄及び年次報告書内で団体 名の掲載	◎	×	×
9	ARRN活動に関連する英語ニュース(ARRN Newsletter等)の不定期配信※8	◎	×	×
10	JRRN及びARRNが保有する国内外専門家・団体等との連携等の支援※9	◎	×	×

【発行・問合せ先】



日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN) 事務局

※2009 年 6 月 1 日より事務所が移転しました

財団法人リバーフロント整備センター 企画グループ 内

〒104-0033 東京都中央区新川 1 丁目 17 番 24 号 ロフテー中央ビル 7 階

Tel: 03-6228-3860 Fax:03-3523-0640 E-mail: info@a-rr.net URL: <http://www.a-rr.net/jp/>